

8. 地域の交流について

問24 あなたは近隣の方（中学生以下のお子さん）に対し、あいさつなどで声をかけることがありますか。（あてはまるものを1つ選んでください。）

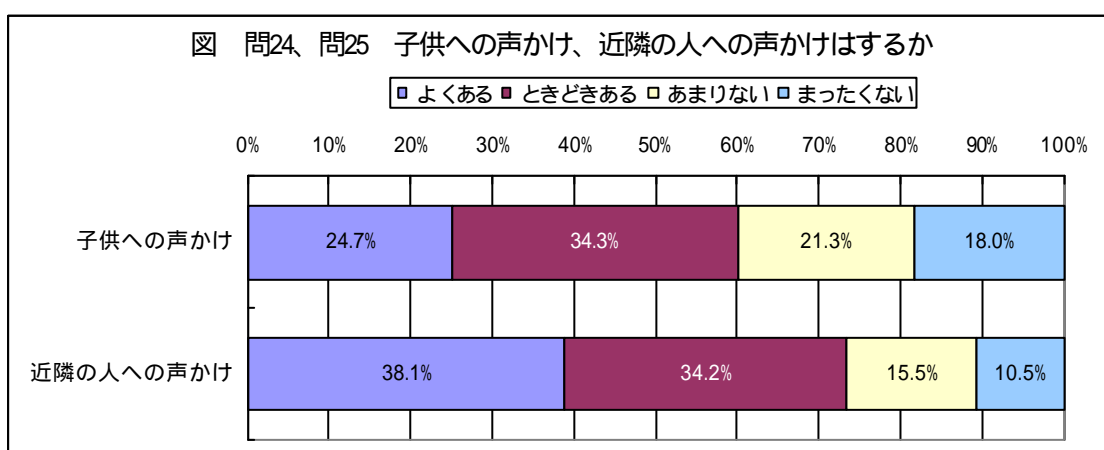
1	よくある	397	24.7%
2	ときどきある	552	34.3%
3	あまりない	342	21.3%
4	まったくない	290	18.0%
	無回答	28	1.7%

問25 あなたは近隣の方（中学生以下のお子さん以外）に対し、あいさつなどで声をかけることがありますか。（あてはまるものを1つ選んでください。）

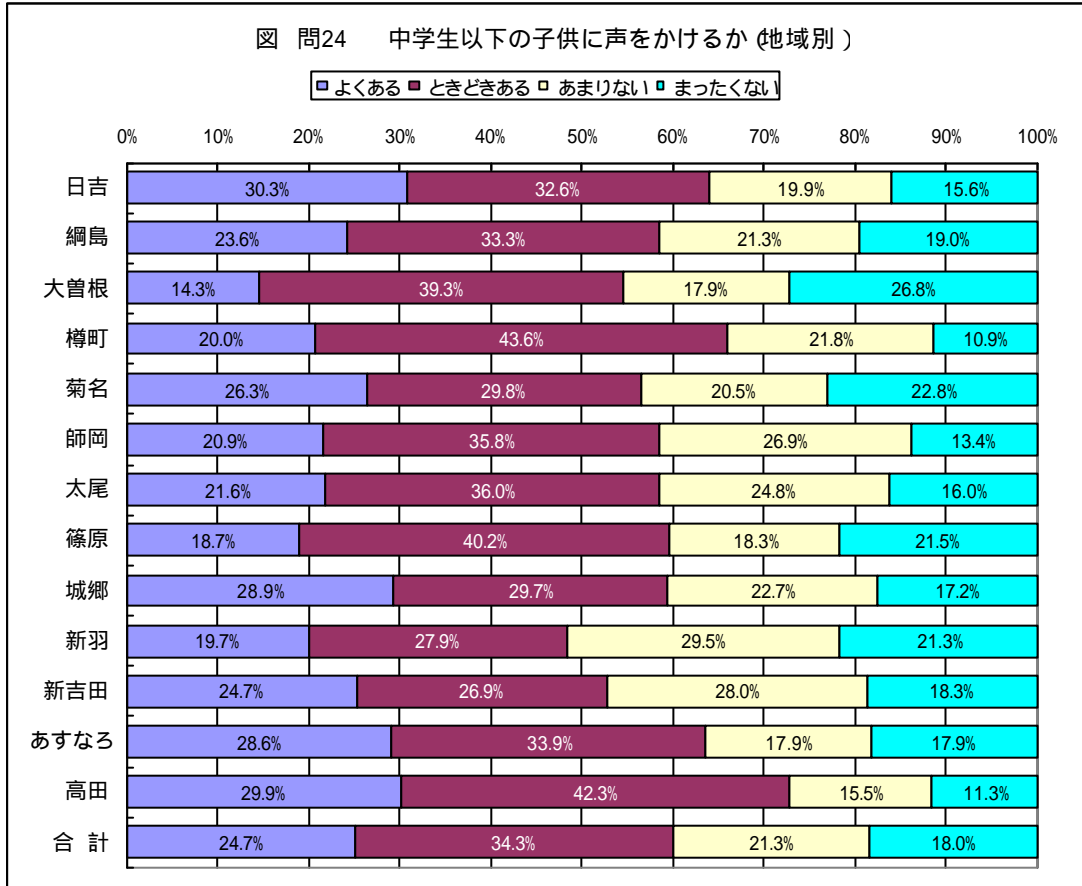
1	よくある	613	38.1%
2	ときどきある	550	34.2%
3	あまりない	250	15.5%
4	まったくない	169	10.5%
	無回答	27	1.7%

地域・近隣との交流について、問24で「子供への声かけ」と、問25で「近隣の人への声かけ」をしたことがあるか質問した。子供への声かけは、「よくある」「ときどきある」を合わせて59.0%で6割近くあり、「あまりない」「まったくない」は合わせて39.3%で約4割となっていた。

近隣の人への声かけは、「よくある」「ときどきある」を合わせて72.3%と7割を超えており、「あまりない」「まったくない」は合わせて26.0%と少なくなっていた。子供へ声かけよりも近隣の人への声かけの方が13ポイント多くなっているのは、全般的に核家族化が進んでいることと見る事ができると思われる。



問 24 の中学生以下の子供への声かけについて、地域別に見るといくつかの特徴が見られた。「よくある」「ときどきある」を合わせた「ある」は、全体では6割弱であるが、高田地区では72.2%と飛び抜けて高く、逆に新羽、新吉田、大曽根地区ではそれぞれ「ある」が47.6%、51.6%、53.6%と極めて低くなっているのが特徴的であった。



回答者の属性で見ると、性別では、「ある」は女性が男性を15ポイントほど離して高くなっていた。

また、年齢別では「30歳未満」では「あまりない」「まったくない」を合わせた「ない」が62.3%と6割を超えており、「30歳代」に入ると「ある」が過半数を超えてくる。そして年齢が高くなるに従って「ある」が高くなっていき、「60歳代」でピークの67.9%で7割近くに達していた。

住居の形態別では、「持ち家・マンション」が68.7%で7割近くと高くなっており、「持ち家・一戸建て」は平均値で、「賃貸・マンション」では最も低い51.0%で5割をちょっと越えた程度であった。

家族構成別では、「ひとり暮らし」は「ない」が66.5%となっており、「2世代」世帯で平均をやや上回っていた。

子供の年齢別で見ると、「4～6歳」「7～12歳」が78%台で飛び抜けて高く、「3歳以下」でも平均より8ポイント高かった。逆に、「子供はいない」層は、「ない」が約6割と極端な差が生じていた。

就労状況では、「会社員・公務員」のサラリーマン層が「ない」が半数で「ある」とほぼ同数になっていた。逆に、「専業主婦」の「ある」が74.2%と飛び抜けて高く、「就労していない」人の「ある」が55.8%と低かったことと対照的になっていた。

図 問24 中学生以下の子供に声をかけるか
(性別・年齢別・住居の形態別・家族構成別・子どもの年齢別・就労状況別)

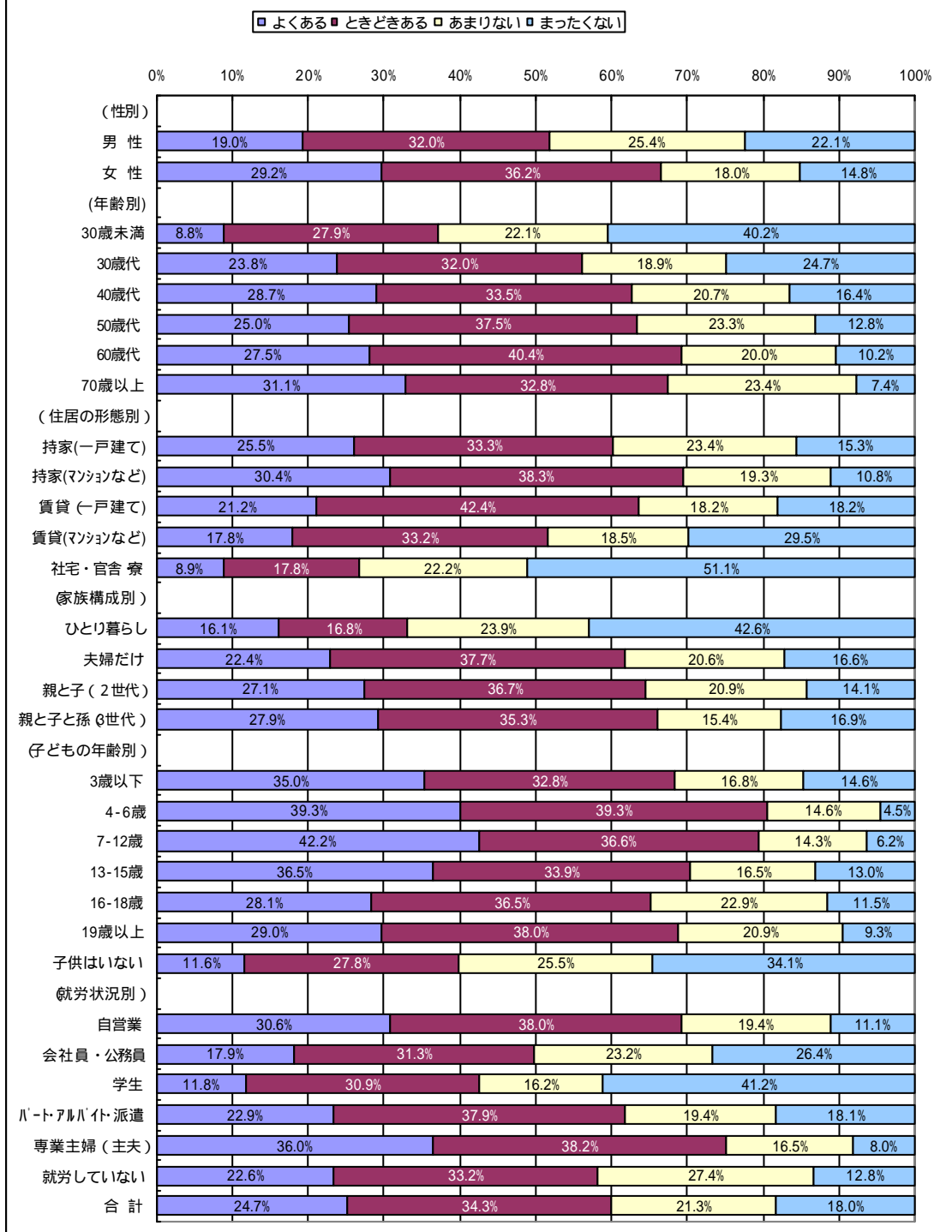
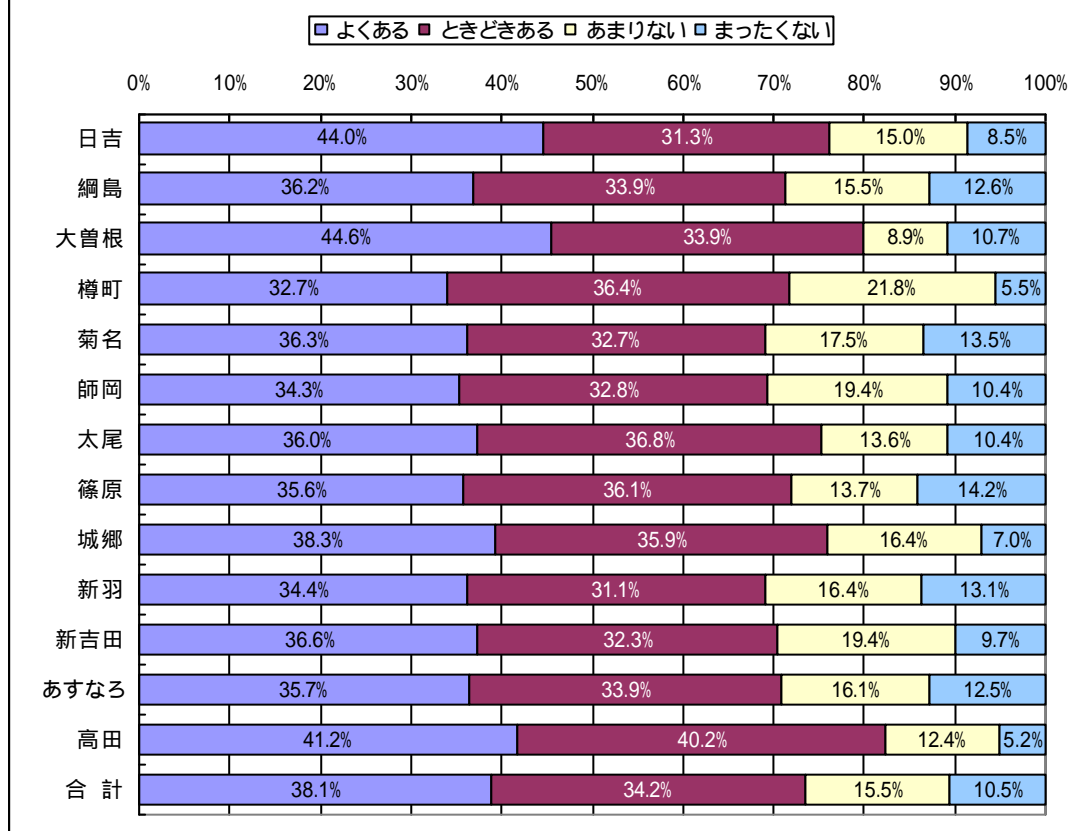


図 問25 子供以外の近所の人に声をかけるか (地域別)



問 25 の近隣の人への声かけについて、地域別に見るといくつかの特徴が見られた。「よくある」「ときどきある」を合わせた「ある」は、全体では7割強であるが、高田地区では81.4%と飛び抜けて高く、大曽根、日吉、城郷地区などでも平均を10ポイント以上上回っていた。逆に新羽、師岡地区、では「ある」が65.5%、67.1%と低くなっていた。

回答者の属性で見ると、性別では、「ある」は女性が男性を10ポイントほど離して高くなっていた。

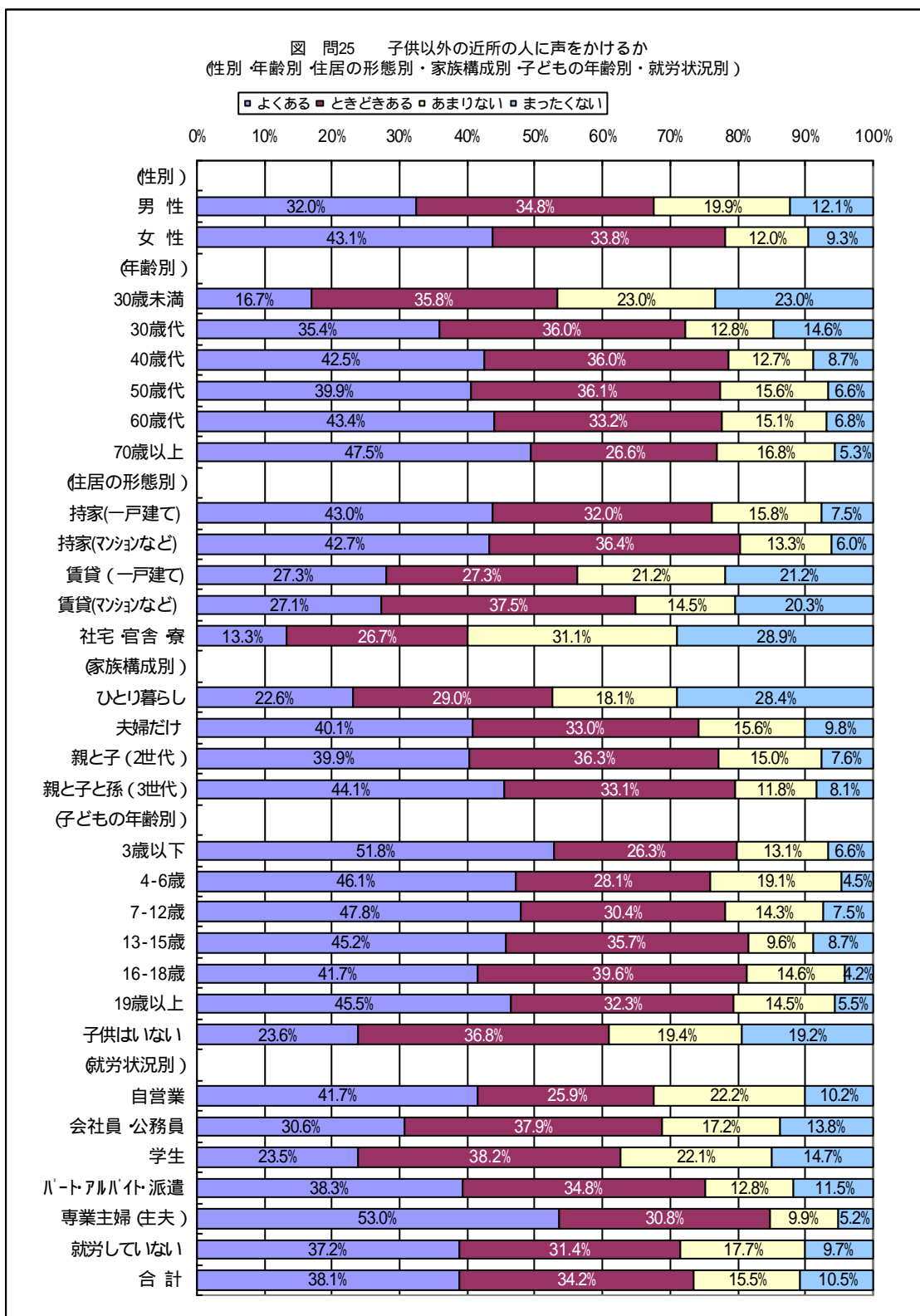
また、年齢別では「30歳未満」では「ある」が最も低く52.5%となっており「ない」の46%とあまり差がない。「30歳代」に入ると「ある」が7割を超えていた。そして年齢が高くなるに従って「ある」が高くなっていき、「60歳代」がピークで76.6%と8割に近くなっていた。

住居の形態別では、「子供への声かけ」と同様に「ある」は「持ち家・マンション」が79.1%と8割近くで最も高くなっており、「持ち家・一戸建て」は75.0%で平均値をやや上回り、「賃貸・マンション」では低く64.6%で平均を8ポイント下回っていた。

家族構成別では、「ひとり暮らし」は「ある」が51.6%で低くなっており、「2世代」世帯で平均をやや上回り、「3世代」で77.2%と最も高くなっていた。

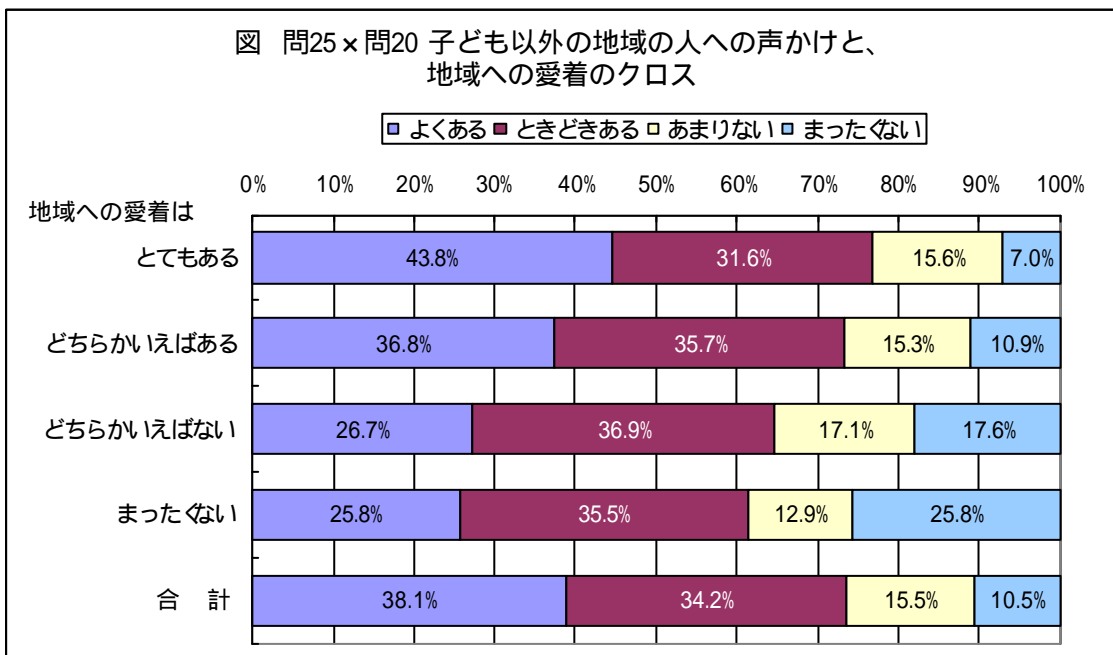
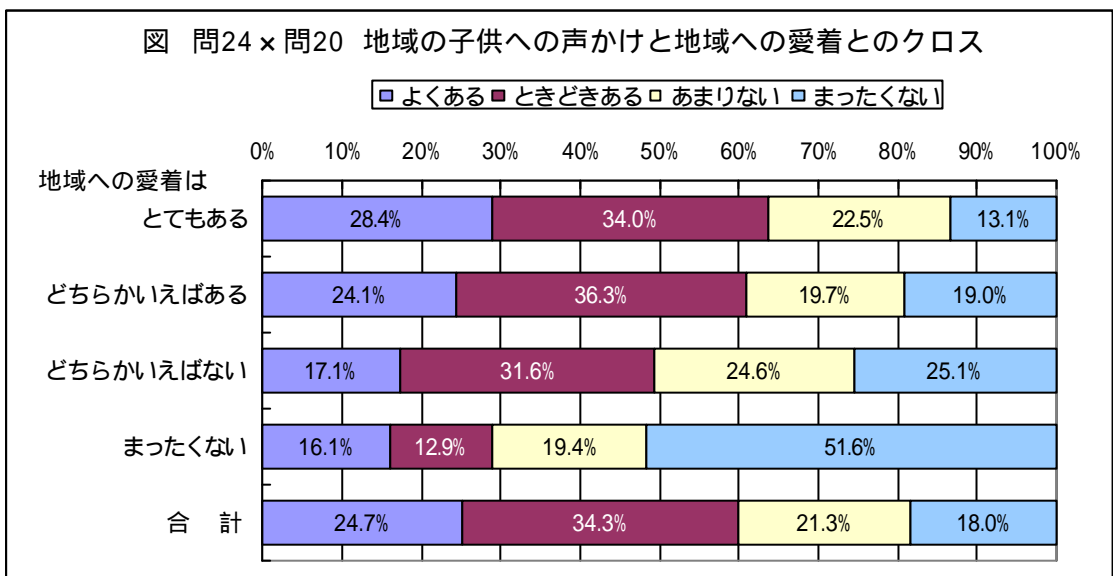
子どもの年齢別で見ると、高校生と中学生の年代の子が「ある」が8割以上と高く、「3歳以下」でも平均より5ポイント高かった。逆に、「子供はいない」層は6割と差が生じていた。

就労状況別では、「専業主婦」が「ある」が83.8%と8割を越え飛び抜けて高く、反対に、「学生」が61.7%と最も低く、「自営業」が67.6%、「会社員・公務員」のサラリーマン層が68.5%、「就労していない」人が68.6%で7割弱と平均より低かった。



問 24 と問 25 の「地域の人への声かけ」について、問 20 の「今住んでいる地域への愛着はあるか」とそれぞれクロス集計してみた。「地域の子どもへの声かけ」については、地域に愛着が「とてもある」人は「子どもへの声かけること」が「よくある」28.4%で3割近く、「どちらかと言えばある」人も声をかけることが「よくある」が約4分の1と高くなっていたが、愛着が「どちらかと言えばない」「まったくない」人は「声をかけることかない」人が過半数以上と多数となっていた。

同様に、「地域の人への声かけ」についても、地域への愛着が「とてもある」人が43.8%で「よくある」割合が最も高く、「どちらかと言えばある」「どちらかと言えばない」「まったくない」の順番で、声をかけること「よくある」「ときどきある」が減少していく傾向を明確に示していた。



問26 あなたはここ2～3年の間で、家族以外で自分の世代とは違った方と共に活動する機会（子供が年輩の方から知恵を聞く、または自分が伝えるなど）がありましたか。（あてはまるものを1つ選んでください。）

1	たくさんあった	189	11.7%
2	少しあった	336	20.9%
3	あまりなかった	401	24.9%
4	まったくなかった	655	40.7%
	無回答	28	1.7%

問27 あなたは今後、お住まいの地域の中で、自分の世代とは違った方と共に活動する機会（子供が年輩の方から知恵を聞く、または自分が伝えるなど）があれば、参加したいと思いますか。（あてはまるものを1つ選んでください。）

1	関心があり、既に参加している	107	6.7%
2	関心があり、すぐ（1ヶ月以内）に参加しようと考えている	42	2.6%
3	関心があり、今後ちかいうちに（半年以内）に参加しようと考えているが、すぐに参加する考えはない	224	13.9%
4	関心はあるが、当面（半年以内）は参加しようとは考えていない	931	57.9%
5	関心がない	272	16.9%
	無回答	33	2.1%

問26では、「世代の違った人とともに活動する機会があったか」質問した。「あまり」「まったく」をふくめて「なかった」が65.6%で約3分の2を占めており、「たくさん」「少し」を合わせて「あった」とする人は32.6%で約3分の1であった。

これを地域別に見ると、高い順から高田、あすなろ、新吉田、新羽地区では「たくさん」「少し」を合わせて「あった」とする人が約4割前後あり、平均を8～9ポイント上回っていたが、低い順では日吉、綱島、大曽根地区では25～27%となっていた。

回答者の属性で見ても、「あった」が女性が男性より8ポイントほど高いこと、子供で「中学・高校生」がいる世帯で約4割、「パート・アルバイト」、「専業主婦」で約4割近くと高かったほか、大きな変化は見られなかった。

問27では、「世代の違う人とともに活動する機会があれば参加するか」と質問した。「既に参加している」「すぐ参加しようと考えている」と前向きな答えは9.3%と1割に満たず、「近いうちに参加しようと考えている」を加えても23.2%にすぎなかった。「参加しようと考えていない」「関心がない」は合わせて74.8%と4分の3近くとなっていた。

地域別に見ると、城郷、樽町、大曽根地区などでやや参加意欲が高くなっているほか、大きな変化は見られなかった。

回答者の属性で見ると、「30歳未満」「ひとり暮らし」「会社員・公務員」で参加意欲が低いことなどを除いて、大きな変化は見られなかった。

図 問26 世代の違う方と活動する機会があったか (地域別)

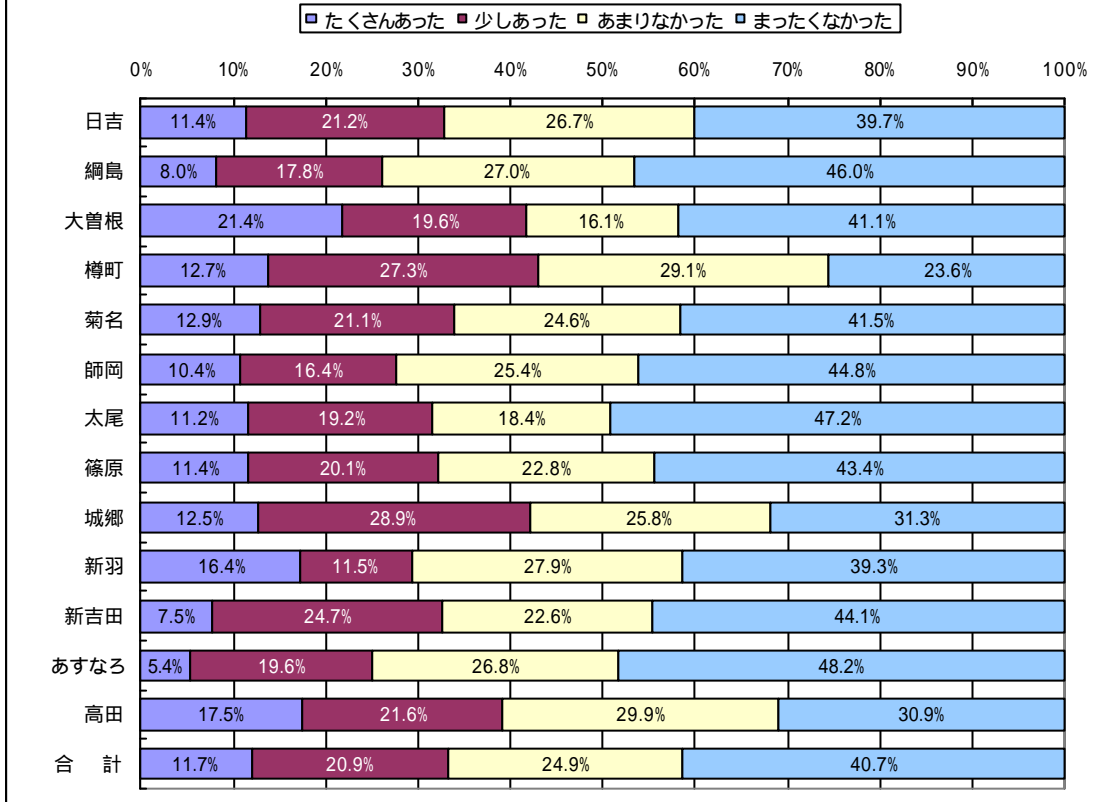
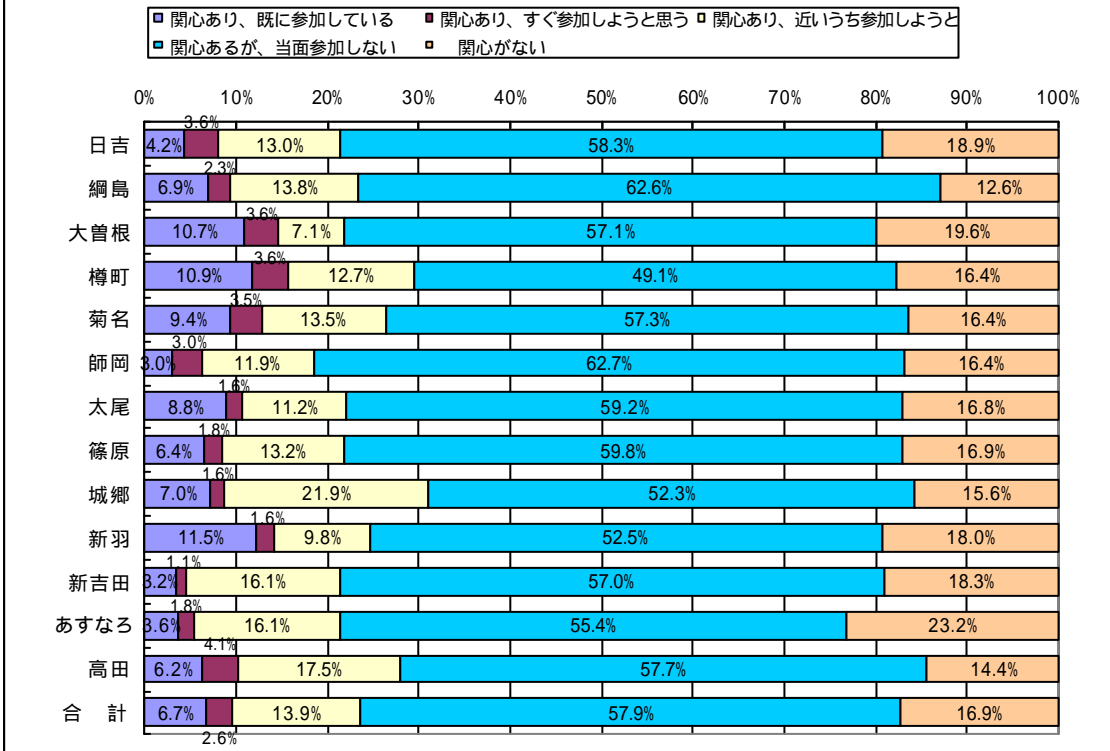


図 問27 世代の違った方との活動に参加したいか (地域別)



問 26 の「世代の違う人との交流の有無」と、問 20 の「地域への愛着」とをクロス集計してみた。「地域への愛着」が「とてもある」人は、世代の違う人との交流が「たくさんあった」「少しあった」を合わせて「あった」と答えた人が 38.2 % と最も多くなっていた。そして、「どちらかと言えばある」、「どちらかと言えばない」、「まったくない」という順に、「世代の違う人との交流」は「まったくなかった」が増加していた。ここでも「地域への愛着」の有無と「世代の違う人との交流」が相関関係になっていることが示されていた。

